軽井沢サクラソウ会議
NEWSLETTER ニュースレター
軽井沢の自然環境を保全するボランティア団体　設立2000年
Vol.98　2017. 2.15発行

新年度の活動企画を募集します！

2017年の春もそっと近づいて来ています。サクラソウ会議も飛躍の年にしたいものです。一人一人の会員の知恵やエネルギーが発揮できるような【人材多様性】に富んだ会に成長していきたいものです。あなたも、軽井沢の自然をみんなで楽しめるような新企画を提案してください。　[今城治子]

軽井沢の四季彩便り⑮

『カシワ』　写真・文 渡辺 久義（会員）

柏と言えば端午の節句。餅を包む大きな葉が印象的ですね。冬でも散らずに残っているので、ここにもあったんだと改めて気付きます。軽井沢では昔ながらの街道沿いの家々でよく見かけます。山の崖斜面などに疎らに生えています。意外にもサクラソウと関係が深く海辺のカシワ林は絶好の住処です。軽井沢では端午の節句を過ぎてから芽吹くので残念ながら柏餅には間に合いません。

軽井沢サクラソウ会議　予定　2月～5月

- ●2月16日（木）・2月23日（木）13:30～15:30
  植物標本の整理　中央公民館
- ●2月18日（土）18:30～21:00
  定例会　くつかけテラス2階多目的室
- ●2月26日（日）
  いきものにぎわい講演会　東信自然史研究会
  佐久平交流センター　第５会議室
- ●3月2日（木）・3月9日（木）・3月23日（木）
  13:30～15:30　**植物標本の整理**　中央公民館
- ●3月14日（火）18:30～20:00
  「草原再生における現状と課題」生態学会　自由集会
  早稲田大学 I会場（参加自由・無料）
- ●3月16日（木）12:00～14:00
  サ会議ポスター発表　東京早稲田大学16号館4階
- ●3月25日（土）9:00～10:30
  サクラソウ自生地草刈り
- ●3月25日（土）18:30～21:00
  定例会　くつかけテラス2階多目的室
- ●3月31日（金）・4月1日（土）9:00～12:00
  手前味噌仕込み　予定　中央公民館
- ●4月22日（土）9:00～12:00
  第1回「モニ1000里地調査」
  軽井沢タリアセン
- ●5月13日（土）9:00～12:00
  第2回「モニ1000里地調査」
  軽井沢タリアセン
- ●5月13日（土）14:00～15:00
  New！「野の花さんぽ」　深沢紅子美術館

CONTENTS

1 ●新年度の活動企画を募集します！／『軽井沢の四季彩便り』⑮／2月～5月の予定
2 ●お知らせ／子どもたちと考えるグランドデザイン／軽井沢花暦カードを作ります／ピクニックに行きませんか♪
3 ●お知らせ／植物標本の整理を始めました！／「モニタリング1000」2017年度予定／深沢紅子の野の花美術館とのコラボ観察会
4・5 ●報告／「自然資源を生かした地域づくり全国フォーラム」参加報告
6 ●投稿／森の光害問題について
7 ●報告／生活環境課との「こもれびの町講座」での懇談　●軽井沢 今、昔『軽井沢・きき取り物語』活動
8 ●コラム『自然史をたどる旅～今ここへのエコツアー～』　●事務局から　●編集後記

お知らせ

子どもたちと考えるグランドデザイン

「軽井沢グランドデザイン」が発表されてから2年以上の時間が過ぎたけれど、人々の関心はいま一つといったところです。50年100年先と言われてもなあ…というのが大方の感想でしょうか。

そこで、50年後の軽井沢を見ることができる子どもたち自身に考えてもらおうという企画が立ち上がろうとしています。町内を探検し、冒険し、大先輩の話を聴きながら遠い将来に思いをはせようという構想です。

あえて大人の考えたデザインの説明抜きで、未来の軽井沢を思い描いてもらいます。サポート役の大人は私を含めて8人ほど、「22世紀風土フォーラム」基本会議委員である役場職員と民間委員の混成チームです。

来年度4回ほどのワークショップの案として、農業体験・チェックポイントにいる人を取材する冒険・湯川探索・休耕田と里山探索・お年寄りの話を聴いて記録・離山からふるさとを見渡す体験、などなど。

飯田市で「地域再生診療所」を主宰する井上弘司さんによると、飯田の実践例では、地域が20年後にどんな姿であって欲しいのかを問うと、大人はインフラ整備の塊のようになるが、子どもの視点は「遊べる川」や「山の環境」あたりになるといいます。(『地域文化』118号・八十二文化財団)
大型テーマパークが出てこないのは、豊かな自然に恵まれて育った故でしょうか。今後教育委員会とも相談しながら、町内を中心に公募によって子どもたちの参加を促すことを検討中です。

子育て世代の委員や若手の委員間で、立場にかかわりなく自由な発想や意見が飛び交う官民協働の雰囲気を長老として楽しんでいます。

私たち軽井沢サクラソウ会議は、より豊かな自然環境を次世代に引き継ぐべく活動しています。
今回の企画でサクラソウ会議の皆さんのご協力をお願いし、子どもたちと一緒に夢中になって探検したり冒険したりする場面が数多く訪れることを願ってやみません。　［須永 久］

軽井沢花暦カードを作ります

モニタリング1000でお世話になっているタリアセンとコラボ（協力）して軽井沢の花暦カードを作り、数百円程度の価格で販売しサクラソウ会議のＰＲと活動資金の足しにするという企画を行っています。単語帳風にして、表が写真、裏にコメントを書く様式で2017年の春までに第１弾を完成させる予定です。　［渡辺久義］

ピクニックに行きませんか　みんなの小さな草原に！

春になるのが待ち遠しい今日この頃です。

軽井沢に23％もあった草原の生態系の再生をめざして、年に1回草刈りをしている国有林2ヶ所がありますね。「本当に苦役の草刈り」をするだけではなく、草刈りのおかげで復活した「みんなの小さな草原」にピクニックに行きませんか？

三ツ石の草原（2016年６月４日）

春は食べられる野草摘み、夏は軽井沢のおいしいトウモロコシを持って、秋はライ麦パンのサンドウィッチを持って、キノコ狩り。小さな草花や、青空を飛び交う小鳥の姿を探しながら…。

大日向の防火帯では、増えてきたコマツナギの根元に寝転んで、ミヤマシジミの来るのを待とう！三ツ石では、木々の花も楽しんで、実った実をじっくり調べたいなー。そんな企画です。参加できる人募集中！都合の良い日を５月までに決めましょう！

［事務局］

お知らせ

植物標本の整理を始めました！

1月19日、植物標本の整理に参加しました。作業場所の中央公民館に行ってみると、すでに今城さんが畳の上所狭しと標本を準備している最中でした。そう、今回は和室での作業です。

ヤマザクラ？カスミザクラ？

大林さんと3人で、最初に書かれている植物名が確かかどうかを何冊もの植物図鑑で調べます。葉のつき方、形、大きさ…、花びらやおしべの数、毛の有無…などなど、時には定規を使って、顕微鏡で確認して、図鑑の説明と照らし合わせ、同定（確定）していきます。

この日は、18種もの植物標本の同定作業が出来ました！作業をしていて私が驚いたことは、1種名無しの植物があり「これはどうするの〜？」と思ったら、さすが大林さん、今城さん！「これは、キク科だね！」と言いながらも、だいたいの植物名もあれこれ出し、図鑑などで調べながら同定しました。ヒメムカシヨモギだそうです。素晴らしい!!

2時間程で畳のほとんどが姿を現しました。達成感あり。大変な作業なのかと思っていましたが、意外と楽しいではないですか！植物名などわからなくても面白いではないですか！この寒い時期にはピッタリですね。皆様も、ちょっと覗いてみませんか。

［伊賀冨美子］

• • •

植物の名前はある程度知ってはいても、その植物が何科で何属かとなると、さてさて、実際に標本と図鑑の記述を一つ一つ確認し、また、ルーペや顕微鏡で茎や葉に棘や毛が有るか無いかなど根気のいる作業は初めての経験でした。

この作業の中で、「アマドコロ」がユリ科からキジカクシ科へ、「ギョウジャニンニク」がユリ科からヒガンバナ科へ、その他「シナノキ」や「ヤブデマリ」「サギゴケ」も科が変更になっていることを知り大変びっくり…。ナンテンの葉に似ていることから名前のついた「ナンテンハギ」は幼い頃、ツリガネニンジン（トトキ）などと共に、その若芽をアズキッパとかアズキナと言って、おひたしにして食べた事を思い出す、懐かしい植物にも出会いました。

軽井沢には1,000種以上の植物が自生していると言われていますが、その植物の特徴や細かいところまではなかなか気付かない事が沢山ありました。この冬仕事に新しい発見が待っている同定作業に参加してみませんか！　［大林義博］

「モニタリング1000」2017年度予定

集合場所：タリアセン駐車場
（調査日の駐車料金は無料となりますのでサクラソウ会議で植物調査に来ましたと係員に告げて下さい）

月１回（4月〜11月）
日時：土曜日の午前９時から２時間ほど

■予定日と概要

4/22（土）　午前調査
5/13（土）　午前調査＋午後コラボ観察会
6/17（土）　午前調査
7/8　（土）　午前調査＋午後コラボ観察会
8/19（土）　午前調査
9/30（土）　午前調査＋午後コラボ観察会
10/21（土）　午前調査
11/18（土）　結果報告会

深沢紅子野の花美術館とのコラボ観察会

「深沢紅子野の花美術館」が主催の「野の花さんぽ」に協力予定です。
■5/13・7/8・9/30（変更も有）

「野の花さんぽ」の講師をします。土曜日の午前中「モニ1000」で状況把握、ネタ集めやプレ練習をしたいと考えています。「自然観察指導員」も7名になったので、力を合わせて楽しい観察会をしたいと思います。

報告

「自然資源を生かした地域づくり全国フォーラム ～生物多様性から社会課題にアプローチする人材とは～」

2017年１月22日に、生物多様性センター・日本自然保護協会主催で、「自然資源を生かした地域づくり全国フォーラム」が開かれました。会場は江戸東京博物館。

150名参加したフォーラム。

北広島町の
「芸北　高原の自然館」

高齢社会の日本では、地方では人口流出、地域の基幹産業の衰退などの社会問題が大きくなっています。他方、全国の生物多様性は危機的状況にあります。この２つの問題の重なり合っている部分に焦点を定めて、両問題の解決を図らなければならない、そのためにはどうしたら良いのかを問題提起するフォーラムでした。

すでに2016年９月、「自然資源を生かした地域づくり実現塾」が、東京と石川の２会場で開かれ、地域の社会的課題を解決する中で生物多様性を保全しよう、そのために活動できる人材を育成しようとの目的で全国から23名が参加し、研修を受けました。

今回のフォーラムの第１部は、「実現塾」で紹介された先進例と、参加した２人の塾生の活動例の紹介、第２部は、講師と塾生によるパネルディスカッションでした。その中で、軽井沢サクラソウ会議の活動の参考になると思われる２つの先進例をご紹介します。

（フォーラム全体についての報告は、日本自然保護協会のHPをお読みください。）

【先進例　その1】

里山からはじまる、現代的な資源循環 「芸北せど山再生事業」の取り組み

発表者：芸北　高原の自然館　白川勝信氏

「芸北　高原の自然館」は、ブナが群生する原生林、草花が咲き誇る草原、西日本随一の泥炭湿原を観察するための拠点、白川さんはここで学芸員として働いている。参加しているNPO法人西中国山地自然史研究会が、総務省の平成27年度「ふるさとづくり大賞」を受賞し、「里山の手入れをするための仕組つくり」が評価された。

「せど山」というのは「裏山＝里山」。放置され荒れ放題になっていた「せど山」の木を間伐し、再生させるために地域通貨（せどやま券）を創った。間伐材を切って軽トラで持ち込むと（せどやま券）で農家に手間賃が支払われる。小学校の授業で、木を切ったり、カヤを刈ったりすると、生徒には（せどやま券）で手間賃が支払われる。この仕組みができたおかげで、4年間に広葉樹1,345ｔを伐採し、薪1,613ｔを販売し、（せどやま券）9,370千円分が流通。その原資は行政からの5,500千円の補助金。

間伐材を運ぶ軽トラの行列！

さらに、行政主導で、「薪活＝薪を使う生活」として薪ストーブの普及、「せどやま定食」の販売、町自身も薪ボイラー（5,000万円）を導入。町中が、バイオマスエネルギーを使って、里山の自然生態系を保全できる様になりつつある。

小学生の手刈りしたカヤ1束（直径50㎝）を、